

来週の市場とレート予想

	8/7(月)	8/8(火)	8/9(水)	8/10(木)	8/11(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 600	ト ン	△ 1,000	△ 1,000	祝日
財政他	△ 8,700	+ 2,000	ト ン	△ 8,000	
資金需給	△ 8,100	+ 2,000	△ 1,000	△ 9,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年物価変動)		交付税特会借入・償還	国庫短期証券発行・償還(6M) 国債発行(30年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 500 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 ETF買入 + 500				
(日本)	景気動向指数(6月)	国際収支(6月)	マネーストック(7月)	機械受注(6月、7-9月見通し) 企業物価指数(7月) 第3次産業活動指数(6月)	
(海外)	米 消費者信用残高(6月) 米 ミネアポリス連銀総裁講演		米 非農業部門労働生産性(4-6月速報)	米 週間新規失業保険申請件数(8月5日終了週) 米 生産者物価指数(7月) 米 財政収支(7月) 米 NY連銀総裁、記者会見	米 消費者物価指数(7月) 米 グラス連銀総裁講演 米 ミネアポリス連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、先週末対比3兆2,900億円増の362兆9,300億円から始まった。その後は、1日、国債買入オペ、国庫短期証券買入オペを主因に364兆1,000億円まで増加した後、2日の税・保険揚げを主因に減少し、週末は357兆6,400億円となった。  
無担保コールON物加重平均金利は31日から2日まで、△0.064%~△0.063%で推移し、週末4日には△0.054%まで上昇した。  
ターム物は、1~2W物で△0.045~△0.035%程度の取引が見られた。  
来週は、国内では国際収支(8日)、機械受注(10日)、海外では、米消費者物価指数(11日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0 ~ 0.001
TDB 3M	△0.120 ~ △0.105
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約3,400億円で、週間償還額の約5,200億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。月初、償還に対するロール案件も減少し、やや閑散なマーケットであった。発行レートは、引き続き投資家の強い運用ニーズから、一部の企業ではマイナスでの発行も見られたが、概ね0%近辺での出合いであった。来週の償還額は、4,600億円程度となっている。企業の夏季休暇要因もあって、償還対比発行減少が予想される。中間期末を見据えて、ショートターム物中心の発行が多くなると思われる。発行レートは、引き続き投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺での出合いとなるだろう。8日に、CP等買入オペが3,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

3日に国庫短期証券3M第699回債の入札が行われ、最高落札レート△0.1142%(前回債△0.1202%)、平均落札レート△0.1178%(同△0.1230%)と前回債からレートがやや上昇した。セカンダリー市場ではやや売りが見られ、週末は新発3ヶ月物で△0.112~△0.111%の出合いが見られた。来週は8日に6M物、9日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.085%近辺の出合いから始まり、週央まで△0.09%前後で推移した。短国3Mの発行日となる7日受渡しでは△0.08%台まで上昇。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされたが、レート水準に変化は見られず△0.08%近辺の出合いとなり越週した。  
SC取引では10年346回債は週を通して概ね△0.20%台前半~半ばで推移。5y132回債は週末に△0.20%台半ば~△0.30%近辺の出合いが見られた。その他2年373・374・375・376・378回債、5年130・131・132回債、10年334・335・336・345・346・347回債、20年161回債、30年52・55回債、40年9・10回債などに引合いが多く見られた。